

地学 Sheets

No.10

北海道各地から産出する黒曜石
その2

きたそらちちほう 北空知地方

(North Sorachi Region)

北空知地方で産出する黒曜石は、ほとんど数cm程度の円礫になっています。それら黒曜石の表面は、手に取ってみると若干引っ掛かる感じを受けるものや、滑らかな触感であるもの、水和層によって少々白濁しているものなどがあります。

この産地の一番の特徴は、光にかざすと透けて見えることであり、鏡下においても石英の結晶がわずかに確認できる他、清澄なガラスとして観察されることです。その他、北空知地方からも旭川地域で産出する黒曜石と同様の特徴を持つ黒曜石を採取できます。前述の若干引っ掛かる感じを受けるもの、水和層によって少々白濁しているものは、それに相当する場合があります。これらは地質時代における、流水の働きによる黒曜石の移動・拡散を意味しており人為的要素は一切含まれません。

この地方では、北竜町・秩父別町・深川市・滝川市といった雨竜川流域や石狩川流域で黒曜石を点々と採取でき、新十津川町付近まで採取できます。また、平野部の他に丘陵地～山間部でも採取できます。しかし、新十津川町を越えた南側では、これまでの調査では一切黒曜石を確認できておりません。黒曜石が運搬され堆積する時の海水準の変化や地殻変動などの時期を考える上でも大変興味深い事です。

北空知地方からは、主に滝川組成グループに属する黒曜石が産出する他、旭川Ⅰ・Ⅱ組成グループの黒曜石も採取されます。いずれも、第四紀更新世の低位段丘堆積層、すなわち礫・砂・凝灰質の粘土からなる地層中から採取されます。滝川組成グループは、旭川地域から北空知地方に限って見つかりますが、黒曜石の噴出源については、未だ明らかになっていません。

(学芸員 向井 正幸)



北空知地方において黒曜石の円礫は、礫・砂・凝灰質の粘土からなる地層中に他の礫と一緒に含まれる。数cm程度の大きさ。



地学 Sheets

Asahikawa City Museum

旭川市博物館HP

